

## 淑徳大学アーカイブズの開館

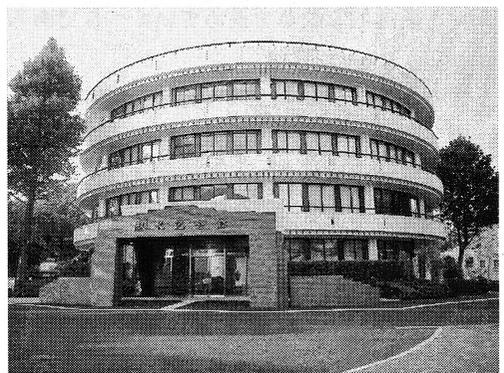
はじめに—淑徳大学について—

淑徳大学は社会福祉への関心がまだ今日ほど高まっていなかった昭和40年、大乘仏教の「利他共生」の精神を理念とし、福祉を宗教および教育と一体のものとして実現すべく、社会事業家・宗教家・教育者である長谷川良信によって設立された。当時としては国内で4番目の社会福祉系単科大学であった。

現在は千葉県千葉市中央区に千葉キャンパスと千葉第2キャンパスを、埼玉県入間郡三芳町に埼玉みずほ台キャンパスを持ち、学部も総合福祉学部・コミュニティ政策学部・看護学部（本年4月から看護栄養学部と改称）・国際コミュニケーション学部、経営学部（本年4月開設）の5学部が増えている。

### 主な事業内容

淑徳大学アーカイブズは、平成22年4月に開設された。平成22年は、学祖長谷川良信の生誕120年にあたり、その記念事業の一環として開学当初からの建物である旧1号館（円形校舎）のリニューアル工事を行い、平成22年10月に「淑水記念館」としてオープンした。「淑水」とは長谷川良信の号で、この「淑水記念館」にはアーカイブズをはじめ、



淑水記念館

長谷川良信の偉業を顕彰し、創立の趣旨に則り宗教、教育、社会福祉に関する研究調査等を行う長谷川仏教文化研究所、開学と同時に開設された「淑徳大学児童相談所」を引き継ぎ、発達につまづきを示す乳幼児に対する発達支援活動ならびに研究を行う発達臨床研究センター、地域と連携した事業を行う地域支援ボランティアセンターおよび同窓会等、本学の建学の精神を実現するための諸機関が入っている。

アーカイブズは、淑徳大学ならびに学校法人大乗淑徳学園の歴史や諸活動に関する資料、およびわが国の社会福祉に関する資料の収集、保存を行うとともに、収集資料の公開や調査、研究、展示等を通して、本学ならびに本学園およびわが国の社会福祉の発展に寄与することを目的とし、以下の事業を展開している。

①本学ならびに本学園に関する資料や刊行物等の収集、調査研究、保存および閲覧。②本学ならびに本学園の保存年限が過ぎた事務文書のうち重要な文書の移管、調査研究、保存および閲覧。③わが国の社会福祉関係資料の収集、調査研究、保存および閲覧。④資料集や報告書等の編集および刊行。⑤年史編纂事業。⑥自校教育の支援。⑦本学ならびに本学園および社会福祉にかかわる展示の企画・運営。⑧その他の事業。

以下、それぞれの事業について述べていきたい。

①教職員および学生、退職した教職員、卒業生等を対象に、本学ならびに本学園に関する資料の収集を行っている。収集資料はまだ多くはないが、それらは今後展示や出版物等に活用していく予定である。

②アーカイブズの事業の中でもっとも重要なものといえるが、発足以来2年近く経つ現在、まだ十分に機能しているとはいえないのが現状である。今後現行の文書保存規程の改訂も含めて、全学的規模で文書管理体制を構築していかなければならないと考えている。このような中で、本学の姉妹施設である社会

福祉施設「淑徳共生苑」(平成19年4月開設)の事務文書については、文書規程を改訂して「理事長は、文書が保存期間を経過したとき又は保存期間中に保存の必要がなくなったときは、施設長及び淑徳大学アーカイブズに指示し、すみやかに廃棄の処理をしなければならない」とし、文書の廃棄には必ずアーカイブズが関わることとなった。淑徳共生苑は本年で開設5周年を迎え、事務文書の廃棄もこれからであり、これにより共生苑の成立当初からの事務文書の移管が可能となった。また、本年3月で閉校となった淑徳幼児教育専門学校の事務文書についても、必要な文書の移管を行うことになっている。

③「福祉の淑徳」としてわが国でも屈指の福祉系大学である本学の最大の特徴を活かすため、社会福祉関係資料の収集・保存を行っている。現在は、明治18年にわが国で2番目の感化院である東京感化院を設立した高瀬真卿の日記や自筆原稿、写真、書簡、著作等の資料と、戦後淑徳女子農芸専門学校(後の淑徳短期大学)、大正大学、日本社会事業大学、日本女子大学、東洋大学で教鞭をとり、「社会福祉」と「近代仏教」の2つの学問領域を歴史研究の立場から先導し、斯界の重鎮として活躍した吉田久一氏(平成17年没)の遺品や写真、自筆原稿、講義ノート、書簡、著作等の資料を収蔵し、展示や研究等に活用している。

また、近年民間の社会福祉法人等の貴重な資料が廃棄や散逸の危機に瀕していることから、アーカイブズがその受け皿としての役割を果たすとともに、社会福祉関係資料の保存のあり方についても情報を提供していきたいと考えている。これに関しては平成22年度、戦前に設立された関東地域の社会福祉法人・施設を対象として、事務文書等の保管状況に関するアンケート調査を実施した。今後さらに調査範囲を広げ、社会福祉施設・法人におけるアーカイブズの発展に寄与していきたいと考えている。

④アーカイブズでは『淑徳大学アーカイブ

ズ・ニュース』を年2回発行している。また、「淑徳大学アーカイブズ叢書」として資料集や報告書等を刊行をすることとしている。平成23年度は第1冊目として高瀬真卿の日記の翻刻を刊行した。

⑤本学は平成27年に創立50年を迎えるため、現在50年史の編纂事業を進めている。事業自体は平成21年から進められているが、翌年アーカイブズが開設されるとその事業はアーカイブズが担当することとなった。また、淑徳共生苑が刊行する設立5周年誌の編集についてもアーカイブズが支援を行っている。淑徳共生苑では、今後5年ごとに年誌を刊行してその足跡を記録していくことにしており、アーカイブズも引き続きその支援を行っていく予定である。

⑥本学ではこれまでも学祖長谷川良信や、建学の理念である「利他共生」の精神等に関する講義を行ってきたが、このような自校教育をさらに発展させるため、昨年「建学の精神・自校(史)教育プログラム策定検討委員会」が設けられた。アーカイブズもこれに加わり現在検討を行っている。

⑦展示室は「淑水記念館」の3階にあるが、ここでは基本的に年1回特別展を開催している。平成22年度は、館のオープニングにあわせて、長谷川仏教文化研究所とともに「学祖長谷川良信先生生誕120年記念展」(会期:平成22年10月31日～平成23年3月31日)を開催した。この展示は館の4階のホールで行われ、会期後も常設展として引き続き展示



アーカイブズ展示室

を行っている。なお、3階の展示室では同時期に「社会福祉史・大学史展」を開催した。ここでは学祖長谷川良信が大正8年に創設した総合社会事業施設「マハヤナ学園」に関する資料を中心とした展示を行った。平成23年度は、本学が会場となった日本社会福祉学会の秋季大会にあわせて、これも長谷川仏教文化研究所とともに「近代日本における感化教育の黎明期—東京感化院と千葉感化院—」(会期:平成23年10月8日～平成24年3月30日)を開催し、同時に「『淑徳大学附属図書館千葉図書館所蔵・16～20世紀イギリス救貧法及び社会福祉の歴史貴重書・重要文献コレクション』展」と「吉田久一展—吉田久一の戦中・戦後史—」も開催した。

⑧平成23年8月から、地域との連携を図り、地元の方々との交流を深めるため、「史料講読会」を発足させた。現在、千葉市内にお住まいの方7名にご参加いただき、毎月第2・第4金曜日に、アーカイブズ所蔵の高瀬真卿の日記を読んでいる。今後はさらに多くの方にご参加いただけるよう努め、アーカイブズ所蔵の資料だけでなく、地域の資料なども広く取り上げてきたいと思っている。その他、千葉・関東地域社会福祉史研究会の事務局もアーカイブズに置かれている。

#### 施設の概要

アーカイブズの施設は、事務室(38.55㎡)、アーカイブズ展示室(77.10平米)2室、福祉機器展示室(173.58㎡)、社会福祉史アーカイブズ倉庫(58.50平米)、学祖・大学史アーカイブズ倉庫(29.25平米)を備え、また長谷川仏教文化研究所との共用で図書室(117.03平米)と会議室(58.50平米)を持っている。このうち福祉機器展示室では、福祉機器だけでなく、千葉県内の特別支援施設の生徒が描いた絵画や、陶器・かばん等の作品を展示して施設の活動を紹介するとともに、大学教育の一環としても活用している。

(淑徳大学アーカイブズ 桜井 昭男)